

1. 2023 年度事業報告総括表

		2020～2024 中期計画	2023 年度 計画	
		【取組方針】改めて渋沢栄一を問う環境の変化に伴い渋沢栄一の評価も変化してきている状況下において、現代と当時の行動、生き方、考え方を改めて問いたす	渋沢栄一の叢智を未来へ活かす 渋沢から現代を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢の思想に基づく『論語と算盤』や「フィランソロピー」事業から現代を捉え、再考する ・コロナ禍の中で生活する今、渋沢に関する興味関心や知識を深める場の再構築と展開
			計 画 事 項	事 業 報 告
公益事業 1	研究センター	渋沢栄一再考に向けての研究促進	研究成果の出版	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一と「フィランソロピー」第3巻（地域振興）出版記念学術シンポジウムの実施 ・渋沢栄一と「フィランソロピー」第4巻（福祉）初稿入稿（2024 年秋、刊行予定）
		啓発事業の企画・運営	『論語と算盤』の英訳	・英訳用の現代語訳を作成中（2025 年度頃、刊行予定）
			論語とそろばんセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・「論語とそろばん」セミナー：オンライン配信（2024 年 3 月 1 日～3 月 31 日） ・『論語と算盤』読書会：第 12 期 オンライン・対面と両方の形式で実施
	協賛・助成・支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・協賛：第 40 回渋沢・クローデル賞 ・支援：経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History 		
公益事業 2	情報資源センター	社史プロジェクト	実業史関連情報資源の開発・提供	<ul style="list-style-type: none"> ・「渋沢社史データベース（SSD）」：更新、既搭載データ修正、「渋沢関係略年譜」データ改訂 ・「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」：改訂 24 図、SSD ヘリンク追加 340 件ほか
			ビジネス・アーカイブズの振興	・「ビジネス・アーカイブズ通信」：98～101 号配信
		実業史錦絵プロジェクト	実業史錦絵等の収集・情報資源化	・「実業史錦絵索引」維持管理、渋沢栄一関連絵葉書のウェブ公開準備
		渋沢関連情報資源の開発	渋沢栄一関連文献の情報資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・『渋沢栄一伝記資料』網文英訳：第 10、11 巻をウェブ公開 ・『論語と算盤』オンライン」をウェブ公開
公益事業 3	渋沢史料館	展示活動	常設展、企画展の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展「渋沢栄一を知る」の展示替え：第一国立銀行創立 150 年、渋沢栄一と関東大震災 ・企画展「養育院の「院長さん」渋沢栄一」、「孫から見た渋沢栄一」、「渋沢栄一肖像展 I」
		普及活動	渋沢栄一に関する教育普及活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「青淵忌」映像「故渋沢子爵葬儀の実況」の上映など、講座「記録映像でみる日米人形交流「青い目の人形」」実施 ・帝塚山中学校や糸島市ハローピースアクトの日米人形交流事業や、中津市歴史博物館の新一万円札発行記念事業、深谷市関東大震災関係展示、日本女子大学教養講座「写真資料にみる渋沢栄一」、北区立赤羽岩淵中学校からの職場体験の受入など、様々な団体からの依頼に対応 ・オリジナルグッズ（榮太郎飴、絵葉書、カレンダーなど）の制作、販売
		資料収集・保存	資料収集、整理、代替資料の作成 収蔵庫内の環境維持	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一書簡、渋沢栄一筆「勝海舟遺墨跋」などの資料・書籍の購入 ・日米友情人形「ジーン・クレア・ダウニング」、鮫島純子氏などの関係資料寄贈 ・「米国グラント氏外国人二名参来之節諸費記 飛鳥山別荘」複製資料制作など ・収蔵庫・書庫・展示室などの環境調査、収蔵庫・書庫の除塵防黴作業、資料燻蒸を実施
		調査・研究	渋沢栄一関係や博物館活動の 調査研究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢雅英氏、穂積家、尾高家のオーラルヒストリーを実施 ・「増田明六日記」などの館蔵資料や「穂積家寄託資料」の調査整理、『徳川慶喜公伝』関係資料の館内調査、デジタルミュージアムに関する他館ヒアリング・検討 ・『渋沢史料館年報 2021 年度』、『渋沢研究 36 号』、企画展図録『孫から見た渋沢栄一』の刊行
	総務グループ	雑誌刊行	「青淵」の刊行	・5 月号（第 890 号）～4 月号（901 号）を刊行
	会員・支部支援	会員総会の開催、支部講演会の 支援など	<ul style="list-style-type: none"> ・第 219 回会員総会・記念講演会「関東大震災 100 年と渋沢栄一」を開催 ・海匝、野田、仙台、深谷、秋田支部各講演会の支援 	
	関連事業	財団全体の広報など	<ul style="list-style-type: none"> ・国立科学博物館「関東大震災 100 年企画展」のデジタルコンテンツ共同制作・協賛、渋沢栄一賞共催、アジア・太平洋賞協賛、中津市歴史博物館／全国社会福祉協議会／日仏会館／深谷市等への後援 8 件 	

2. 公益事業 1 (研究センター) 詳細報告

① 研究成果の出版

シリーズ出版『渋沢栄一と「フィランソロピー」』(全 8 巻) に 2016 年度から取組んでおり、2023 年度は第 4 巻(福祉)の編集作業を行い、2024 年 2 月に出版社の企画会議で了承を得、契約を締結し、初稿を入稿した。刊行は 2024 年秋を予定。また、2023 年 5 月刊行の第 3 巻(地域振興)につき、出版記念学術シンポジウムを 2023 年 11 月 22 日、AP 東京八重洲にて、対面形式で行い、41 名の参加者を得た。また、同年 9 月 23 日には経営史学会関東部会にて本書の合評会が催された。

2024 年度刊行予定の第 8 巻(文化)については、第 4 巻の進行が遅れたことにより、2025 年の刊行予定で現在進行中、月 1 回ペースで執筆者 11 名(うち職員 3 名)にて研究会を実施。

② 『論語と算盤』の英訳

本件は、主に日本企業に勤める外国人や海外の研究者を対象に、日本のビジネス社会の考え方、また、日本の資本主義のあり方や経済・経営思想を、渋沢栄一の『論語と算盤』を通してグローバルに広く周知することを目的としている。

刊行は 2025 年度前後を目指す。2022 年度から、中国古典に精通し、トロント大学倫理研究所での研修経験も積まれた守屋淳氏の協力を得て、英訳にするための現代語訳を作成開始。2024 年度は英訳作業を進め原稿の完成を目指す。

③ 論語とそろばんセミナー

a. 「論語とそろばん」セミナー

今回のセミナーのテーマは「国際関係・国際平和」。昨年度と同様に、2 つの講演と経営者インタビューで構成し、受講者の都合に合わせて参加できるよう、2024 年 3 月 1 日から 3 月 31 日までの間、ネット配信した。

講演 1 飯森明子氏(桜美林大学): 第一次世界大戦前後の渋沢の国際交流について紐解く。渋沢は国際連盟協会の会長、アルメニアの難民支援など精力的に活動し国際的な人的ネットワークを構築したが、排日移民法の成立という厳しい現実に直面した。しかしながら、その後も日米友情人形交流など日米間の相互理解を求める活動を継続し、また、国際交流の担い手として、とりわけ女性や児童に期待を寄せていたことに言及された。

講演 2 于臣氏(横浜国立大学): 中国から世界に目を向けたスローガン「中国の夢」から、現代における等身大の中国の国際関係について考察する。現体制では、海外に滞在する中国人に対しマナーの喚起が発信されるなど、国際社会を意識した試みが行われている。その一方で、渋沢が中国訪問時に「論語と算盤説」を唱えるも政治的な口実としてしか受け入れられなかったことを例に、「中国の夢」を追求する難しさについても言及された。

経営者インタビュー 小坂文乃氏(株式会社日比谷松本楼代表取締役社長): 同氏は、梅屋庄吉を曾祖父に持つ。孫文や革命に関わる人たちへ惜しみなく経済的・物質的支援をした梅屋と、日中関係の改善や中国の経済発展の要として孫文を評価し支持していた渋沢、それぞれの関わりについて語られた。また、梅

屋と孫文の友情関係を中国の若い世代に知ってもらおう小坂氏の取り組みから、未来を見据えた継続的な青年交流の重要性についても語られた。

b. 『論語と算盤』読書会

渋沢栄一の著書『論語と算盤』を毎月 2 章ごと読み進め、参加者同士でディスカッションを行うもので、第 11 期は、オンライン、対面とそれぞれの形式による実施を望む声が強かったことから、実験的にこれまで約 1 年（全 11 回）かけて行ってきた読書会を半年 6 回に 2 分割し、オンライン形式を 2022 年 9 月～2023 年 2 月まで参加者 28 名（うち修了者 22 名）で実施、対面形式を 2023 年 2 月～2023 年 7 月まで北とぴあ会議室にて参加者 26 名（うち修了者 20 名）で実施した。

第 12 期も引き続き同様の形で実施し、オンライン形式を 2023 年 9 月～2024 年 2 月まで参加者 28 名（うち修了者 19 名）で実施、対面形式を 2024 年 2 月～2024 年 7 月まで北とぴあ会議室（1 回目のみ北区飛鳥山博物館講堂）にて参加者 28 名で実施中。

c. 経営者インタビュー

「新しい時代の渋沢栄一」を作家・守屋淳氏が経営者の取り組みや活動に見出すインタビュー。「論語とそろばん」セミナーの経営者インタビューとは別に実施しており、『青淵』へ不定期連載中。

2023 年は実施しなかったが、2024 年は株式会社 PoliPoli 伊藤和真氏（代表取締役／CEO）へ 5 月にインタビュー予定。

④ 協賛・助成・支援事業

a. 渋沢・クローデル賞

日仏会館の創立者である渋沢栄一とポール・クローデルを記念し、日仏両国において、それぞれ相手国の文化に関してなされた若手のすぐれた研究成果に対して贈られるもので、当財団は 1984 年の創設当初より協賛。

2023 年度第 40 回受賞者は、日本側は本賞なし、西村晶絵氏（奨励賞）と佐藤香寿実氏（奨励賞）、フランス側はアルチュール・デフランス氏が受賞。日本側の表彰式・受賞記念講演会は 2023 年 7 月に日仏会館にて実施。フランス側は 2023 年 11 月にパリ日本大使公邸にてレセプションを実施。

西村晶絵氏 『アンドレ・ジッドとキリスト教
—「病」と「悪魔」にみる「悪」の思想的展開』の著作

佐藤香寿実氏 『承認のラインテとムスリムの場所づくり
—「辺境の街」ストラスブールの実践』の著作

アルチュール・デフランス氏 「奈良時代の詩歌文学
—中国文学の再創作と日本文学の創作の間」の博士論文

また、第 39 回フランス側受賞者ダミアン・プラダン氏の記念講演会を 2024 年 2 月に日仏会館にて実施。

b. 支援事業

経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版を引き続き支援。

3. 公益事業 2 (情報資源センター) 詳細報告

① 実業史関連情報資源の開発・提供

a. 渋沢社史データベース (SSD)

渋沢栄一関連会社を中心とする各社の「社史」の内容を、目次・索引・年表・資料編といったデータから検索できるようにするもので、渋沢栄一の事績に加え、渋沢を取り巻く実業界などの情報を現代に至るまで搭載。2023 年度は関連会社である七十七銀行の社史データなど約 10,000 件を追加するとともに、既存データ約 8,000 件の修正も行った。収録社史は 1,631 冊、総データ数は約 253 万件に拡充された。また、データベースに搭載している「渋沢関係略年譜」の改訂も行い、内容の充実に努めた。

b. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図

渋沢栄一が関与した企業や団体の現在に至る変遷をチャート図により視覚化し、現代社会とのつながりを明確にするもの。2023 年度は渋沢関連事業の継承について再検討を行い、金融、交通、電力、保健・医療等の計 24 図を改訂し、情報のアップデート等を行った。また、「渋沢社史データベース」へのリンクを 300 件以上追加したほか、国立科学博物館およびオンラインで公開された「企業資料から読み解く関東大震災：経済を支えていた企業はそのとき」では SSD とともに搭載情報が活用され、デジタルアーカイブ間の連携実績となった。

② ビジネス・アーカイブズの振興

「ビジネス・アーカイブズの振興」は「アーカイブズは倫理に関わる」ということを前提に、渋沢栄一の「道徳経済合一説」を現代の視点から実践をうながす事業である。

a. 「世界／日本のビジネス・アーカイブズ」

「デジタル時代のアーカイブズ」「デジタル・トランスフォーメーションと記録管理」をウェブサイトに掲載し、デジタル時代におけるアーカイブズのあり方について理解を促した。

b. メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信 (BA 通信)」

企業史料管理とビジネス・アーカイブズに関する海外情報を分かりやすい形で紹介するもので、2023 年度は 4 回の配信・ウェブサイト掲載を行った (3 月末の講読者数：943 名)。欧米の行事や文献などを紹介するほか、国際アーカイブズ評議会ビジネス・アーカイブズ部会 (ICA/SBA) や日本の企業史料協議会など関係諸団体の最新動向を発信した。

c. 関連団体での活動

企業史料協議会主催「第 12 回ビジネスアーカイブズの日」で、オブザーバーなどを務めた。清水建設株式会社、東京電力ホールディングス株式会社の事例が紹介され、渋沢栄一関連企業におけるアーカイブズが、未来に向かう企業の知識情報基盤となり得る可能性を示した。また、実業史研究に資するウェブサイトを集約するコンテンツ「実業史リンク集」を更新し、日英 2 カ国語による情報発信を行った。

③ 実業史錦絵等の収集・情報資源化

渋沢敬三の「日本実業史博物館」構想による収集資料中、際立って特徴的な錦絵や、その後継資料となる絵葉書という視覚的な資料に焦点を当てる事業である。2023 年度は「実業史錦絵絵引」の維持管理、および渋沢栄一関連絵葉書コレクションの公開準備を進めた。

④ 渋沢栄一関連文献の情報資源化

a. 『渋沢栄一伝記資料』の網文英訳

渋沢栄一関連情報の国際的な発信の充実・強化を目指し、『渋沢栄一伝記資料』（以下『伝記資料』）第 10 巻および第 11 巻の英訳網文をウェブサイトで公開した。

b. 『論語と算盤』再版（東亜堂書房, 1916.09）のデジタルアーカイブ化

ウェブサイトに「論語と算盤オンライン」を開設し、東亜堂書房版『論語と算盤』の全文（テキスト）をスマートフォンやパソコンなどで誰でも自由に読めるようにした。また、時代背景、出版者、編者等に関する解題や、典拠になったと思われる記事（参考記事）の書誌情報など、本文の理解を促すための情報も公開。2022 年度に作成したページ画像、および参考記事の本文は、2024 年度に公開予定である。

⑤ 既存のデジタルアーカイブやデータベースの更新・整備

a. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』『渋沢栄一ダイアリー』『渋沢栄一フォトグラフ』

デジタル版『渋沢栄一伝記資料』は、5 回にわたりウェブサイトの更新を行うとともに、全文公開へ向け、別巻の公開準備を開始した。また、東京都北区の官民連携事業の市民講座「青淵義塾」（親子講座、上級編）に講師として参加して「ダイアリー」「フォトグラフ」等の活用を指導するほか、「第 25 回図書館総合展」のポスターセッションに出展し、デジタルアーカイブの普及・活用促進を図った。

b. 財団ウェブサイトおよび『青淵』等での情報発信

ウェブサイトで公開している「渋沢栄一年譜」は、典拠の再調査・改訂を行った。「曾孫が語る渋沢栄一」には「データに見る渋沢栄一」の英訳「The World of Shibusawa Eiichi in a Database」を追加、また、関東大震災 100 年にあわせ「渋沢栄一と関東大震災」のアップデートを行った。『青淵』連載中の「わがまちの渋沢栄一」には「兜社（兜稻荷）跡」など記事 4 件を執筆・掲載、うち 1 件をウェブサイトで公開した。

c. 参考文献資料の拡充など

2023 年度は渋沢栄一・実業史関連文献等 209 点を収集、書誌データ 1,535 点を作成し、資料 1,453 点分を蔵書データベースへ登録した。作成データから「渋沢栄一関連文献」新着リストに 1,240 件の情報を掲載し、情報資源の基盤強化と財団内での共有を図った。また、資料保存対策として 123 点の文献資料を専用の保存箱 (ISO 16245:2009、ISO 9706:1994、ISO 18916:2007 準拠) に収納、あわせて史料館等と連携して収蔵庫・書庫の安定的な保存環境の整備を目指した。その他、機関リポジトリの公開準備、財団内外からの各種レファレンス対応、人文情報学関連イベントでの登壇を含むセミナー・学会への参加・聴講などを行った。

4. 公益事業 3（渋沢史料館・総務 G）詳細報告

新型コロナウイルス感染症の社会的状況に鑑み、午後 4 時までとしていた閉館時間を 2023 年 6 月 1 日より、午後 5 時までとし通常に戻した。在館者数が密にならないように注意しながら運営した。

12 月 1 日～1 月 31 日まで館内整備工事のため休館したが、入館者数の合計は、31,242 名となった。現在の本館オープン年度（1998 年度）の入館者数を上回るとともに、1982 年に開館して以来、最も多い入館者を迎えた 2022 年度（31,795 名）とほぼ同数の入館者を迎えることができた。

① 常設展、企画展の実施

a. 常設展

常設展示「知る」は、創立 150 年を迎えた「第一国立銀行」や、「関東大震災」、「日米友情人形」の展示を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き出し展示を 2020 年度のリニューアルオープン以来運用できなかったが、2 月 1 日から運用を開始した。

b. 企画展

2023 年 3～5 月には「養育院の「院長さん」渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり」を開催し、特に保護児童たちとの関係について取り上げ、「院長さん」と慕われた栄一の活動と想いを展示した。会期中には関連講演会として講演「論語と算盤にみる渋沢栄一の福祉事業への思い」を実施した。

7～8 月には「孫から見た渋沢栄一 鮫島純子さんの語るおじいさま」を開催し、純子さんの語りやイラストなどを通して家族だからこそみえる栄一の姿を展示した。

10～11 月には、新一万円札発行を記念して「渋沢栄一肖像展 I」を開催し、当館が所蔵する初公開を含む栄一の「肖像写真」約 50 点を取り上げ、栄一の「顔」を伝える展示を実施した。会期中には毎週土曜日・日曜日に館長、副館長による「かお見世トーク」を開催し、栄一について多様な姿を伝えた。館内整備工事のための休館をはさみ、一部展示替えをして、再開し、毎月第 1・第 4 土曜日に館長による「かお見世トーク」を開催した。

② 渋沢栄一に関する教育普及活動の実施

幅広い層を対象に渋沢栄一を学べる博物館として各種の普及活動を行った。

a. 青淵忌

渋沢栄一の命日である 11 月 11 日を記念し、特別企画「青淵忌」を開催し、入館無料とした。当日、映像「故渋沢子爵葬儀の実況」の上映を学芸員による解説付きで行い、館長が栄一について語る「かお見世トーク～青淵忌特別版～」などを実施した。

また、谷中霊園においてもイベントを行い、墓参された 166 名に記念品をお渡しした。

b. 講座

3 月 3 日、講座「かわいい、かわいい人形さん、ようこそ日本へ！～記録映像でみる日米人形交流「青い目の人形」」を開催した。1927 年の日米人形交流事業を歴史的な観点から研究されている大妻女子大学教授の是澤博昭氏に副館長がインタビューしな

がら、栄一らが出資して米国で制作された同事業の記録映像「Doll Messenger of Friendship」（1927 年）の上映トーク講座を実施した。

c. オリジナルグッズの製作・検討・販売

企画展「孫から見た渋沢栄一」のノベルティとして、株式会社榮太樓總本舗と共同で栄一が書見台に常時、置いていた「榮太樓飴」のオリジナル缶を製作し販売した。また、「渋沢栄一肖像絵葉書」、「渋沢史料館カレンダー2024」などのオリジナルグッズを製作、販売し、新規グッズ開発・検討も行った。

d. 外部講演・資料提供など

2027 年に日米友情人形交流事業 100 年を迎えることに先駆けて、全国各地（福岡県糸島市、東京都北区など）で開催された関連の演劇、舞台などのイベントに資料協力、助言をし、同時に開催された講演会に館長が出演した。

また、帝塚山中学校の関連映像作品制作に資料提供などで協力した。大分県中津市の新一万円札発行記念関係対談に協力し、出講した。

日本女子大学教養講座（テーマ「写真資料にみる渋沢栄一」）、東京都石神井学園地域公開講座（テーマ「生涯、養育院の院長さんとして 渋沢栄一」）など、大学、博物館、新聞社その他団体による講演会、講座の講師を 43 件担当した。そのほか、テレビ、ラジオなどメディアへの出演も多数行った。

深谷市が市役所と深谷市内商業施設で開催した「関東大震災関係展示」にも解説原稿・資料提供等で協力した。

e. その他

北区立赤羽岩淵中学校 2 年生、2 名の職場体験を受け入れた。

③ 資料収集、整理、代替資料の作成・収蔵庫内の環境維持

栄一書簡、栄一が関わった諸会社資料（澁澤倉庫部、帝国ホテル）、諸団体資料（東京商業会議所）、諸事業資料（渋沢栄一筆「勝海舟遺墨跋」、喜賓会、平和記念博覧会〈大正 11 年、東京府主催〉）、書籍などを購入した（19 件）。

また、栄一に関する資料の寄贈受入（日米友情人形「ジーン・クレア・ダウニング」、鮫島純子氏関係資料など）を行い、所蔵資料の充実を図った。

写真や美術工芸資料の整備では、渋沢栄一肖像写真を撮影しデジタル化を進めた。常設展の展示資料で代替資料がないものについて、今年度は、複製を 2 点（元米国大統領ユリシーズ・グラント接待関係資料）制作した。また、栄一関係資料（「増田明六日記」）撮影・デジタル化及びマイクロフィルム作成を行った。

資料修復としては、「渋沢栄一肖像画」2 点（絹本着色、油彩画）を対象とした。

虫・黴対策として、収蔵庫・書庫・展示室など館内環境調査や特別な清掃を専門業者に委託して実施し、環境の維持に努めた。また新規収集資料などの燻蒸を行なった。

晩香廬、青淵文庫については動態保存に努めた。

④ 渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動

オーラルヒストリーを実施し、渋沢雅英相談役をはじめとする方々の記憶を記録化するとともに所蔵資料の調査を実施した。「増田明六日記」など所蔵資料の調査整理、また「穂積家寄託写真資料」の調査整理を完了した。栄一が編纂した『徳川慶喜公伝』について所蔵資料を中心とした調査研究を行った。所蔵資料のデジタルでの貸出等の対応につ

いて検討を行った。

渋沢史料館の事業報告とあわせて学芸員の調査研究成果を示す論稿、展示記録などを掲載する『渋沢史料館年報 2021 年度』や外部の研究者との研究会の紀要である『渋沢研究』第 36 号を刊行した。

全国の博物館・資料館への展示協力、外部メディアへの資料協力や助言、様々な年代の方々から幅広い内容の栄一に関わる問い合わせ対応等のレファレンス対応を行なった。

⑤ 『青淵』の刊行

2023 年 5 月号（890 号）～2024 年 4 月号（901 号）：発行部数：3,300 部/月

⑥ 会員総会の開催、支部講演会の支援など

a. 会員総会

第 219 回 会員総会・記念講演会を開催

日 時：2023 年 7 月 18 日（火）16:30～17:10（会員総会）
17:30～19:00（記念講演会）

会 場：東京商工会議所 5 階 渋沢ホール

記念講演会

演 題：「関東大震災 100 年と渋沢栄一」

講 師：五百旗頭真氏（公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 理事長）

b. 支部の状況（2024 年 3 月末現在）

支部名	個人会員数	団体会員数
野 田	25	0
深 谷	197	24
岡 谷	2	0
京 都	4	5
仙 台	10	8
酒 田	6	0
秋 田	33	2
茨 城	23	2

支部名	個人会員数	団体会員数
香 取	2	0
宇都宮	18	0
小 諸	0	1
氷 見	1	0
山 形	1	0
盛 岡	3	2
海 匝	31	4
白 河	3	2
合計 16 支部	359 人	50 団体

c. 支部講演会

支部名	開催日	講演内容
海 匝	2023.4.20	「どうする日本-群雄割拠する世界の中で考える」 講師：木村 昌人 氏（元 渋沢栄一記念財団 研究部長）
野 田	2023.8.23	「落語とわたし 演目:100 年目（若手教育論）」 講師：春風亭 昇也 氏（落語家）
仙 台	2024.2.21	「ソニー再生のリーダーシップ」 講師：平井 一夫 氏（ソニー株式会社 代表取締役会長兼 CEO）
深 谷	2024.2.4	「渋沢栄一と近代化を支えた人たち-紡績業と地域形成-」 講師：橋口 勝利 氏（慶應義塾大学教授）
秋 田	2024.1.23	「2024 年の秋田の経済展望」 講師：片桐 大地 氏（日本銀行秋田支店長）

d. 維持会員数・会費収入

(会費収入は千円単位)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合計
	人数	会費収入	社数	口数	会費収入	
2021	1,281	6,308	250	1,289	12,930	19,238
2022	1,194	5,910	247	1,266	12,735	18,645
2023	1,130	5,535	241	1,261	12,640	18,175

e. 寿杖

1923（大正 12）年 4 月 29 日の第 69 回春季会員総会で、満 83 歳の渋沢栄一に第 1 号の杖を贈呈したことに始まり、80 歳以上で申込み頂いた個人会員を対象に「寿杖」を進呈（費用の一部を本人負担）しており、2023 年度は 5 名に進呈。累計で 2,095 本となる。

⑦ 関連事業・広報活動

a. 関連事業

イ. 国立科学博物館「関東大震災 100 年企画展」のデジタルコンテンツ共同制作及び協賛

展示名：関東大震災 100 年企画展「震災からのあゆみー未来へつなげる科学技術ー」

会期：2023 年 9 月 1 日（金）～11 月 26 日（日）

会場：国立科学博物館（東京・上野公園）

国立科学博物館・東京大学大学院 渡邊英徳研究室・渋沢栄一記念財団が共同で、以下のデジタルコンテンツを制作し、上記企画展にて展示した。

「企業からみる関東大震災」（展示場にて大型ディスプレイで展示）

「企業資料から読み解く関東大震災」（オンラインで公開）

ロ. 第 22 回 渋沢栄一賞（主催：埼玉県・深谷市・渋沢栄一記念財団）
受賞者

古泉 肇 氏（亀田製菓株式会社 元代表取締役会長）

本庄 八郎 氏（株式会社伊藤園 代表取締役会長）

室崎 富恵 氏（社会福祉法人いわみ福祉会 理事長）

ハ. 第 35 回 アジア・太平洋賞

（主催：毎日新聞・アジア調査会、協賛：渋沢栄一記念財団・他）

大賞

東島 雅昌 氏（東京大社会科学研究所准教授）

「民主主義を装う権威主義——世界化する選挙独裁とその論理」（千倉書房）

特別賞

シナン・レヴェント 氏（トルコ・アンカラ大言語歴史地理学部准教授）

「石油とナショナリズム——中東資源外交と『戦後アジア主義』」（人文書院）

中屋信彦氏（名古屋大大学院経済学研究科准教授）

「中国国有企業の政治経済学——改革と持続」（名古屋大学出版会）

選考委員会特別賞

中山俊宏氏（慶応大総合政策学部教授）

「理念の国がきしむときーオバマ・トランプ・バイデンとアメリカ」（千倉書房）

b. 広報・後援・協力

- イ. 第 10 回渋沢栄一クイズラリー
(主催：飛鳥山王子界限いい店&老舗の会、協賛：渋沢栄一記念財団)
- ロ. 令和 5 年度中津市特別展「福沢諭吉とお札に選ばれた偉人達」
(主催：中津市歴史博物館、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- ハ. 「全社協 福祉ビジョン 2020」ふくし未来塾 (第 3 期)
(主催：社会福祉法人全国社会福祉協議会、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- ニ. 渋沢栄一ひとづくりフォーラム 2023
(主催：深谷市、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- ホ. 渋沢栄一と孫娘市河晴子—忘れられた天才的文筆家 (文化講演)
(主催：日仏会館、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- ヘ. いとしまハローピースアクト (平和劇)
(主催：いとしまハローピースアクト、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- ト. 「飛鳥山 150 年 渋沢栄一 60 歳からの青春」 (舞台)
(主催：歌で伝える歴史文化の会、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- チ. 第 22 回「論語と算盤」塾
(主催：新都心ビジネス交流プラザ運営協議会、後援：渋沢栄一記念財団、他)
- リ. 「朝日新聞ガイドウォーク企画」
(主催：朝日新聞社、後援：渋沢栄一記念財団)
- ヌ. 北区渋沢プロジェクトへの協力
「青淵義塾」への講師派遣
飛鳥山公園マネジメント協議会への参加
近代化産業遺産イベントへの参加
新一万円札発行カウントダウン協議会への参加
- ル. 東京都都市公園制度制定 150 周年記念事業への講師派遣
- ヲ. デジタルアーカイブ学会での電子記録の管理についての発表

5. 事業報告の附属明細書

2023 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。